農政 田中丘隅

【たなか きゅうぐ】
1662 - 1729

回向墓 MAP L2

田中丘隅
画像提供：世田谷区立郷土資料館

寛文2年（1662年）武蔵国多摩郡平沢村（現在のあきる野市平沢）の名主窪島八郎衛門の次男として生まれる。当時の窪島家は代々農業と絹物業を営んでおり、丘隅は幼い妹たちの面倒を見ながら多摩川流域の行商を手伝い、その合間によく本を読んでいた。

22歳の頃、絹物行商に出かけた先の東海道川崎宿（現在の神奈川県川崎市）で、商売への熱意や人柄を見込まれ、川崎宿本陣の名主、田中家の養子になる。

この頃の川崎宿は、多摩川の洪水や地震、また東海道に定められた「伝馬制度」のため経済的に厳しい状況にあった。父の後を継ぎ、当主となった丘隅は「伝馬制」にかかるお金を集めるため、幕府に六郷川（多摩川河口近くの別称）の渡し船の仕事を引き受けたいと願い出て、永代渡船権を得て渡船賃の収入を得るようになり、幕府からも救済金3,500両の支給を受け、短期間で川崎宿の建て直しを図る。正徳元年（1711年）丘隅50歳のとき仕事を子どもに譲り江戸で儒学者、荻生徂徠のもとで農業政策論などを学ぶ。享保6年、自身の体験に基づく民政に関する意見書『民間省要』（全17巻）を書き、農政改革や農民の貧しい生活の様子などが記されたこの本は有識者の間で好評を得て、八代将軍徳川吉宗に献上された。これをきっかけに川除御普請御用という重要な役目を命ぜられた。洪水被害が多かった相模国酒匂川では丘隅が考案したといわれる「弁慶枠（弁慶土俵）」を堤防に設置し、洪水を防ぐ工事をする。

享保14年（1729年）6月、それまでの業績を認められ武蔵国内の三万石を管轄する支配勘定格という代官になる。しかし、その年の12月、68歳の生涯を閉じた。

丘隅は、田中家菩提寺妙光寺（川崎市）に葬られ、故郷あきる野市平沢の廣済寺にも回向墓が建てられている。

（参考文献）「多摩の人物史」・「多摩の代官」・「郷土あれこれ」・「秋川市史」

民間省要
画像提供：川崎市市民ミュージアム

もっと知りたい ゆかりの地

廣済寺 MAP L2

臨済宗建長寺派本尊は釈迦牟尼仏である。本堂西側にある墓地には、田中丘隅の事跡を記した回向墓があり、都指定有形文化財にも指定されている。

あきる野市平沢732番地

農政 鈴木寛太郎

【すずき かんたろう】
1883 - 1975

鈴木寛太郎
画像提供：親族所有のアルバムより

明治16年（1883年）10月、西多摩郡西秋留村渕上（現在のあきる野市渕上）に生まれる。明治35年（1902年）、19歳で父忠左衛門について養蚕業に従事、20歳で羽村の成進社蚕業伝習所に入所して養蚕技術を習得、家業に戻るとその温暖育を主とする養蚕法を実行し、その普及を図る。また優良蚕種の導入にも尽力した。

大正14年（1925年）には父と共に繭年間収量1,200貫（4,500kg）をあげ、日本一となり一躍有名になる。昭和11年～18年（1936年～43年）の8年間、いずれも繭年間収量5,000kgを超え、特に昭和14・15年（1939・40年）の両年は1,493貫（5,600kg）という、驚異的な収量をあげ、自己の持つ日本記録を更新した。

また、養蚕経営の傍ら養蚕関連団体などの要職、西秋留村村会議員などを歴任。昭和40年（1965年）には勲五等瑞宝章を受章。昭和50年（1975年）2月、享年93歳の生涯を閉じた。

戦後の最盛期（昭和30年頃）、鈴木家には全国各地から養蚕農家が視察に訪れ、年間1,000人近くにもなったという。外務省・農林省などの紹介でインド・ビルマ・シリア・韓国・アメリカなどからも参観者が多数来訪した。広さ6,600㎡の敷地内には蚕室を兼ねた母屋と専用蚕室を中心に宿舎や桑場、繭貯蔵室などの施設を集中して配置、常時6、7人の従業員が住み込んだ。

外国からの視察者（前列左から2番目）

わらなどで編んだ蔟（まぶし）と呼ばれる網
（五日市郷土館展示品より）

春蚕、初秋蚕、晩秋蚕の上蔟（成熟した蚕をわらなどで編んだ「蔟」と呼ばれる網に移す作業）の最多忙時期には80人もの作業員を雇ったという。

（参考文献）「多摩の人物史」・「多摩の代官」・「郷土あれこれ」・「秋川市史」

もっと知りたい ゆかりの地

鈴木家の養蚕場の面影 MAP H3

日本一の養蚕農家の面影が残る桑保管倉庫。他では見られない半地下式の倉庫で、周囲外壁も当時の面影が残る。

あきる野市渕上

経済 岸忠左衛門

【きし ちゅうざえもん】
1869 - 1935

忠左衛門夫妻

明治元年（1868年）、北多摩郡大和村（現在の東大和市）に生まれる。叔母の嫁ぎ先の五日市町の岸家の家督を継ぎ、忠左衛門を襲名する。岸家は炭問屋のかたわらそうめん製造を家業としていた。明治32年（1899年）には西多摩郡会議員に選ばれ、政治的経験も培われていった。

忠左衛門の伝記によると、会議のときも午前2時には起きてそうめん作りの仕事を終えてから、山道をワラジ履きで青梅まで通っていた。当時の交通手段は、馬車か人力車だったため、会議などたびたび訪れる青梅には、鉄道や電気が引かれるのを見て忠左衛門は五日市にも欲しいと痛感した。

その後、秋川流域の有力者の協力を得て、秋川水力電気会社を設立、大正5年（1916年）に電灯をともすとともに、五日市に水道の給水を開始させた。

大正10年（1921年）五日市鉄道株式会社を設立し、大正14年（1925年）に五日市～拝島間を開通させ郷土の近代化に尽力した。

胸像 MAP D3

昭和10年（1935年）7月31日、68歳で逝去。町葬をもって、その功績を称えた。

阿伎留神社には、功績を称え岸忠左衛門翁像が設置されている。

（参考文献）「秋川流域人物伝」・「郷土に光をかかげたひとびと」・「多摩のあゆみ」・「五日市町史」

もっと知りたい ゆかりの地

阿伎留神社 MAP D3

平安時代に書かれた「延喜式神名帳」という神社の名簿の中に、武蔵国多磨郡八座の筆頭に上げられる古社。境内の東側にはその功績を称え岸忠左衛門翁像が設置されている。

あきる野市五日市1081番地

武蔵増戸駅前の桜 MAP G2

武蔵増戸駅前にひときわ大きな桜がある。五日市鉄道の開通を祝って大正14年に植えられたもの。開通時は沿線の住民が花火を上げるなど、お祭り騒ぎであった。

大正、昭和、平成と激動の時代を生き、毎年春になると駅の乗降客の目を楽しませている。

あきる野市伊奈873番地2

ゆかりの人に想いを馳せる散策モデルコース

徒歩 バス

歴史探訪コース

●田中丘隅・丸山惣兵衛・坂本龍之輔の足跡をたどる（所要時間：約2時間30分）

東秋留駅 →7分→ 秋川ファーマーズセンター →15分→ 田中丘隅回向墓（廣済寺） →7分→ 玉泉寺 →5分→ 二宮考古館 →1分→ 二宮神社 →25分→ 地蔵院 →5分→ 西光寺 →8分→ 丸山惣兵衛長屋門 →12分→ 西秋留石器時代住居跡 →5分→ 秋川神明社 →2分→ 坂本龍之輔の碑（故郷碑） →20分→ 秋川駅

近隣の見どころ ●都立秋留台公園［K2］ ●秋川ファーマーズセンター［K2］ ●二宮考古館［L2］

文化探訪コース

●海老澤峰章・鈴木寛太郎に学ぶ（所要時間：約2時間）

武蔵引田駅 →10分→ えびさわみち（道）の碑 →20分→ 渕上の石積井戸 →5分→ 出雲神社の桜 →1分→ 鈴木家 →10分→ 真照寺 →7分→ 海老澤峰章の碑（顕彰碑（金泉寺）） →20分→ 瑞雲寺 →15分→ 武蔵増戸駅

近隣の見どころ ●東京サマーランド［H3］ ●出雲神社の桜［I3］

●疋田浩四郎を偲ぶ（所要時間：約2時間30分）

武蔵五日市駅 →15分→ 阿伎留神社 →20分→ 広徳寺 →30分→ 戸倉しろやまテラス →7分→ 光厳寺 →20分→ 五日市郷土館 →20分→ 武蔵五日市駅

近隣の見どころ ●光厳寺のヤマザクラ［C3］

●五日市憲法草案・萩原タケ・岸忠左衛門に学ぶ（所要時間：約3時間30分）

武蔵五日市駅 →50分→ 深沢家屋敷跡 →50分→ 勧能学校跡 →10分→ 五日市憲法草案の碑（五日市中学校） →1分→ 萩原タケ胸像（五日市出張所） →7分→ 五日市郷土館 →20分→ 広徳寺 →15分→ 岸忠左衛門の碑（阿伎留神社） →8分→ 岸忠左衛門の家 →7分→ 武蔵五日市駅

近隣の見どころ ●南沢あじさい山［C2］ ●広徳寺のイチョウ［D4］

●三ヶ島葭子を偲ぶ（所要時間：約3時間）

武蔵五日市駅 →15分🚌→ 十里木バス停 →10分→ 三ケ島葭子の碑（徳雲院） →20分→ 五柱神社 →30分→ あきる野ふるさと工房 →20分→ 瀬音の湯 →5分→ 石舟橋 →5分→ 十里木バス停 →15分🚌→ 武蔵五日市駅

近隣の見どころ ●あきる野ふるさと工房［A3］ ●秋川渓谷 瀬音の湯［A3］

● 神社・仏閣など見学、拝観にあたってはマナーを守りましょう。 ● 許可なく個人の敷地には入らないでください。